

# 増穂だより



芝浦工業大学柏中学高等学校 〒277-0033 千葉県柏市増尾700番地  
TEL : 04-7174-3100(代) FAX : 04-7176-1741  
URL <http://www.ka.shibaura-it.ac.jp/>

■編集 / 芝浦工業大学柏中学高等学校 総務部  
■発行日 / 令和3年3月24日 発行  
■印刷 / 株式会社横浜総合写真



## Contents

■ 巻頭 (教頭) .....	2P	■ 学年情報 (高校) .....	8P
■ 研究部報告 (SSHの紹介他) .....	3P	■ 各部情報 (総務部/生徒部/事務室/厚生部) .....	9P
■ 研究部報告 (生徒探求発表) .....	4P	■ 各部情報 (グローバル委員会/情報部 /図書室/保健室/クオレ) .....	10P
■ 学年情報 (中学) .....	5P	■ PTA情報 .....	11P
■ 39期生卒業 .....	6P	■ トピックス/あとがき .....	12P
■ 39期生卒業/生徒会 .....	7P		

# ドキュメンタリー映画への誘い - 「事実」と「真実」 -

高校教頭 松原 誠司

ドキュメンタリー映画を観たことがあるだろうか。つまらない、盛り上がりがない、難しい、同じお金を払うならば劇映画を楽しんだほうがよいなどの意見も多いだろう。しかし、テレビでは人物などに焦点をあてたドキュメンタリー番組を目にする機会も多く、評価されている番組も少なくない。これらの番組の多くは60分以内なのに対して、ドキュメンタリー映画の上映時間は一般的にはそれ以上であり、それ故より深い考察がなされ、より広範なテーマが扱われるが、この点が前述のイメージにもつながる一因ともなっている。劇映画のなかには、「事実に基づく」作品もある。しかし、これらは監督などが実際の出来事や人物の行為から着想を得ているものの、脚色を加えられ、時には実際にはない出来事・人物さえも描かれる。すなわち、「事実に基づく」のであって、映画のなかで表現されているものすべてが「事実」というわけではない。これに対して、ドキュメンタリー映画は、実際に起こったことを記録した映像・写真を中心に構成されている。

ではドキュメンタリー映画の作品のいくつかを紹介しよう。

ドキュメンタリー映画の魅力の一つとして、通常では体験できない出来事・景観に接することがあげられる。「フリーソロ」(エリザベス・チャイ・ヴァサルヘリイ、ジミー・チン監督、2018年、アメリカ)も、この種の作品である。フリーソロとは、ロープや安全装置を使わずに自分の身体だけを使って岩壁などを登る、シンプルかつ危険極まりない登山方法である。この映画の主人公は登山家のアレックス・オノルドで、彼がフリーソロではいまだ誰も登ったことのないカルフォルニア州ヨセミテ国立公園のエル・キャピタンへの登頂を記録している。エル・キャピタンとは標高約975mの世界最大の花崗岩の一枚岩、絶壁である。映画では、彼の日常的な訓練や恐怖の克服方法、エル・キャピタンの調査・研究、そして登頂の様子が描かれている。監督の1人で撮影担当のジミーは、エベレスト山頂からスキーで下山した初のアメリカ人で、山岳での撮影にも熟知し、アレックスにできる限りプレッシャーをかけない配慮をしたうえで、迫力ある映像を残している。

この種の映画として、ヘリコプターで移動した山頂から誰も体験したことのないアラスカの山々を滑り降りるスノーボーダーを記録した「ファースト・ディセント」(ケヴィン・ハリソン監督、2005年、アメリカ)、フランス人大道芸人フィリップ・ブティが1974年に行ったワールド・トレード・センターのツインタワー間の綱渡りを紹介した「マン・オン・ワイヤー」(ジェームズ・マーシュー監督、2008年、イギリス)などもある。

ドキュメンタリー映画では、政治・経済・国際的な諸問題を扱った作品も多い。「娘は戦場で生まれた」(ワアド・アルカティーブ、エドワード・ワッツ監督、2019年、イギリス・シリア)も、その一つである。舞台はシリア北部のアレッポ。2010年に中東では「アラブの春」と呼ばれる民主化運動が起り、エジプト・チュニジアなどは政府を倒して民主化がすすむが、シリアでは民主化運動組織の一部が「自由シリア軍」として武装闘争を開始したため、内戦へと発展した。女

子大生であったワアドは、2012年から内戦の惨状や廃墟などをスマートフォンで撮影し、やがて世界へと発信し始める。この間医師志望のハムザと結婚し、長女サマが生まれる。二人は他の協力者とともに瓦礫のなかに医療施設を開設し、空爆を受けながらも治療・手術を続けた。しかし戦況の悪化から、アレッポからの脱出を余儀なくされてしまう。

「共犯者たち」(チェ・スンホ監督、2017年、韓国)では、政権によるマスコミ介入を告発している。イ・ミョンバク大統領は、2008年以降政権に批判的な公共放送局KBS・公営放送局MBCの社長を自分の意をくむ人物に交代させ、ニュース・報道番組を改編させ、政権に不利な情報を抑える報道統制をはかった。MBCプロデューサーとして報道番組を担当していたチェ・スンホ監督も、そのなかで解雇された一人である。彼は報道の独立性確保のために独立メディア「ニュース打破」を立ち上げて報道を開始し、権力による報道統制にかかわる放送関係者を取材し、その構造を明らかにした。その記録をまとめたのが、本作品である。

監督自身が「観察映画」と呼ぶナレーション・音楽などがかぶせない手法で川崎市議会議員の補欠選挙である候補者の活動を記録した「選挙」(想田和弘監督、2007年、日本・アメリカ)、ガンを宣告された自分の父親の死までの様子を、それまでの企業戦士としての生き様とあわせて紹介した「エンディングノート」(砂田麻美監督、2011年)、テレビ局が取材報道した不正により14人もの議員が辞職した富山市議会の様子をまとめ、一方でマスコミの責任にも論及した「はりぼて」(五百旗頭幸男、砂沢智史監督、2020年)など、日本でもすぐれたドキュメンタリー映画は数多く制作されている。

以上ドキュメンタリー映画を紹介したが、これらの映画は「事実」が積み重ねられているものの、監督の制作意図が強く反映されていることに注意しなければならない。ドキュメンタリー作品は「事実」に基づくという先入観があるため、映画の内容自体も正しいと思われがちである。映画に記録されていることは「事実」を連ねたものではあるが、そこでの結論は「真実」とは限らない。映画からは、監督の主張に反する「事実」が排除されている可能性すらあるため、全体像を正しく把握するためには、他の資料で補うなどの必要が生じる。したがって、映画の主張がすべて正しいと判断することは、危険である。この点は、ドキュメンタリー映画に限らない。書籍・雑誌・新聞などでの著作物、ネットの書き込みに至るまで、それらは作者・制作者の考えの反映であり、考え方見方の一つに過ぎず、「事実」すら正しく語られていない場合さえある。それ故、これらの主張を無批判に受容するのではなく、内容を把握して客観的にその正誤を判断したうえで「事実」関係を整理する能力が必要とされる。さらに物事の内容をしっかりと吟味して「真実」に到達する、この能力を磨いていくことが、このような時代だからこそなおさら大切なのである。

## 研究部報告



### 本校のSSHの紹介

『創造性豊かに個性を発揮し、将来社会で活躍する科学技術人材を効果的に育成する』を教育目標としています。

#### 本校のSSH事業のねらい、目標

『Creative, Studious and Communicative (CSC) ~創造力を発揮し、粘り強く取り組み、その成果を積極的に発信する~』を掲げ、将来社会で活躍する科学技術人材を効果的に育成するために、下記の5つを柱として教育活動を行っています。

＜Ⅰ＞ 高校1、2年次の探究授業「GSⅠ, SSⅠ, GSⅡ, SSⅡ」(学校設定科目)を軸とする中高一貫探究プログラムのカリキュラム開発と改善

自由研究、Webコンテストなどのすべての生徒を対象とするプログラムを基底に、その上位の取り組みとして高校1、2年次の学校設定科目「GS・SS」プログラムを設置しています。さらに、深い探究活動に時間をかけて取り組みたい生徒を対象に科学部、数学研究サークルを将来社会で活躍する科学技術人材の交流の場として位置付けています。発達段階や探究レベルに応じて適切にCSCの能力(Driving Question, Information Reference, Research Design, Social Value, Efforts for Improvement, Research Records, Result of the Research, Cooperation with Team, Presentation Skills, Passion for Research)を育成していくことが目標です。

- (1) 夏休み理科自由研究(中学生全員)
- (2) Webコンテストでのグループ探究(中学2年生~高校2年生全員)
- (3) 学校設定科目「GS・SS」での探究(高校1、2年生希望者)
- (4) 科学部、数学研究サークルでの研究(中学生、高校生希望者)
- (5) 現代社会でのディベート実施(高校1年生全員)
- (6) 様々な特別講座(中学生、高校生希望者)

＜Ⅱ＞ 「CSCルーブリック」に基づいた評価の研究  
CSCの諸能力を具体化したルーブリック(評価観点と学習者の到達度をマトリクス化した評価指標)を作成し、教職員および生徒に示すことで、様々な探究活動を通じてその諸能力を効果的に育成します。

＜Ⅲ＞ ベトナムFPT大学・高校との共同研究を軸とした国際性豊かに活躍できる将来の研究者・技術者の育成  
科学技術の分野において世界をリードする人材を育成するべく、「自らの研究・意見を積極的に発信していく力」「グローバル化の進行の中での国際的教養の修得と異文化に対して寛容な態度」「厳しい環境の中でも前向きに物事を捉えるレジリエンス」を身に付けさせることを目標としています。

- (1) 高大4校連携クロス交流プログラム(高校1、2年生希望者)  
(芝浦工業大学および、ベトナムのFPT大学とその付属校)
- (2) 芝浦工業大学、千葉大学の留学生との交流(高校1、2年生希望者)

＜Ⅳ＞ 芝浦工業大学との高大連携・接続プログラム開発と改善

様々な場面で中高大・大学院で連携を図り、CSCの諸能力を効果的に育成していく。

- (1) 高大接続クラス「SSCⅢ」(高校3年生選抜クラス)
- (2) 高大連携探究プログラム(Global PBL)(高校生希望者)
- (3) 工学系理系女子育成交流会(中学3年生、高校生希望者)
- (4) 中高大連携STEAM教育プログラム(高校生希望者)

＜Ⅴ＞ 探究力育成を主眼とする教員研修プログラムの開発と改善

全校体制で研究授業やその事例検討会などに積極的に取り組み、さらに効果的な育成につながる授業を目指しています。

### 千葉大国際発表会 千葉大学国際発表会に参加しました

2月14日に開催された千葉大学国際発表会に課題研究に取り組む高校2年生の5チーム(計8人)が参加しました。飯村さん、宇於崎さんは「Ghibli works from the point of view of residents in certain communities」、市川さん、樋口さんは「Changes in Japanese beauty image from the Edo Period to the Meiji Period」、大佐田君、小山君は「AI smart speaker」大関さんは「Governance System of the Middle East and Future Prospect」、木村さんは「Men's and Women's working society and life reflected in TV commercials」のタイトルで多彩な発表を行いました。

例年は、千葉大学を会場として開かれる本発表会ですが、今年度はすべてオンラインでの開催でした。事前に5分間のオールイングリッシュの発表動画を提出し、当日はZoomで質疑に答えました。参加していたASEAN諸国の大学の先生方や留学生からの英語での質問に果敢に応じることができました。



### 高3進路決定者探究 高3進路決定者による探究活動

#### 【探究活動の概要】

共通テストが終わり、多くの生徒が一般受験へと赴くなか、学校推薦型選抜や総合型選抜ですでに進路を決めていた生徒49人は、進路先で学ぶ内容を軸とした課題研究に取り組んだ。1ヶ月という短い期間ではあったが、自分で設定したテーマに基づき文献調査やアンケート調査を実施し、その成果をプレゼン発表と論文作成という形式で表現した。高大接続を見据えた初めての試みであったが、生徒たちの取り組みは非常に意欲的であり、これから大学に進学するものとして、自らの知的好奇心に基づき学びを深めんとする気概に満ちていたのが印象的であった。大学に入学することを人生の目的としてしまうような視野狭窄に陥ることなく、自らの知的渴望を満たさんがために大学という場を大いに活用し、いずれは公共心に満ちた探究者に育つことを願っている。

#### 【生徒の声】

私は「若者の新規就農の推進に向けてスマート農業はきっかけとなり得るか」というテーマで1か月間研究に取り組んだ。スマート農業とは、ロボット技術やICTを活用した新たな農業のことであり、例えば田植えの自動化、腰への負担を減らすスーツの開発などがあげられる。今回は初めて挑戦したアンケート調査では、答えやすく、有益な結果を得られる質問項目になるよう試行錯誤した。そのアンケート調査から、家庭菜園や農業体験など、農業を身近に感じられる機会がある人ほど関心が高まる傾向にあることから、小中学校での農業体験など課外活動ができる環境を増やすことが必要だと考えた。最後の発表では、農業に対する関心があまり高くない方にも理解してもらえるよう、相手目線にたった発表を心がけることの重要性を痛感した。今後は、農業を通じた地域の交流イベントの開催など、今回の発表から見えてきた課題を大学での学びやその先の研究発表会などで活かしていきたい。

## 研究部報告

### 生徒探究発表会が開催されました

2月13日に、一年間の探究活動の発表会がオンラインで開催されました。発表会には、Webコンテストや中学自由研究の優秀作品、高校1、2年生のGS・SS授業での課題研究の生徒117テーマ199名が参加し、人文・社会科学から理学・工学分野まで幅広いテーマでの発表を行いました。今年は、実際に集まった発表が難しい中でしたので、ホームページ上に特設ページを設置し、事前に研究ポスターを閲覧してもらい、当日はzoomでの口頭発表の形式で実施しました。多くの在校生、保護者の方、他校の先生方の参加により、活発な質疑応答が行われ、発表した生徒のみならず発表を視聴した生徒にとっても、主体的、探究的な学びに触れる良い機会になっていたようです。また、現在、大学や大学院で学んでいる卒業生がTeaching Assistantとして参加し、発表に対する質疑のレベルを上げてくれました。

### 参加生徒の感想

年度末の生徒探求発表会を終えたところで自己振り返りの場として各自ループリック評価を行いました。Creative、Studious、Communicativeの3観点計10の項目について4段階の評価を行うものですが、各項目とも上位2つの肯定的評価が多く、おおむね有意義な探究活動を行えたようです。以下生徒からの感想を抜粋いたします。

- 自分が興味を持ち、将来の職に繋げたいと思っていることが探求できたため、自分の関心を広げることができてよかった。
- 研究を進める過程で、メンバーとはお互いをとても高めあえたし、知る機会を得ることが出来た。チームの一貫性が大切だということも実感できた。
- 質問の際に、自分たちでは見つけられないような視点をいただき、新たに参考にする部分や、学ぶ部分が沢山あったので、是非次に繋げていきたいと思う。
- 研究結果を説明し、それに対しての意見を受け入れられたり、質問に答えたりすることで、これからどう研究すべきか、学ぶことができた。

本校SSH運営指導委員の大学の先生方からは、生徒の研究内容やICTを活用した発表形式に対して良い評価をいただきました。コロナ下における今年の研究活動では4、5月の休校期間中もzoomやGoogle Classroomを通じて担当教員とテーマ設定、研究計画の立案を進めたことにより、6月の授業再開後にスムーズに実験・研究に入ることができ、どの生徒も一年間よく頑張っていました。この経験を自分のものとして、Creative、Studious and Communicativeの力を身につけ、幅広い基礎力の土台の上に立った主体的で深い学びの姿勢を持って大学進学後や社会に出てから活躍できる人材に育ってほしいことを願っています。

### 中学自由研究の発表

今回の生徒探究発表会においては、中学生の自由研究についてもオンラインでの発表を実施しました。中学3年生からは、「神戸市の人口減少は止められるか」と「アリの研究その3〜アリの行動を制御する方法について〜」の2件、中学2年生からは「レタスの芽生えの子葉の就眠運動の研究」の1件についての発表が実施されました。今年度より、中学生の自由研究は、理科室だけでなく人文系の研究も選択できるようになり、生徒はより広い幅の中で興味を持った研究に取り組めるようになりました。また、今回発表に至った3件は今年度の第64回全国学芸サイエンスコンクールで入選や入賞した作品で、中学生の探究活動の取り組みにおいても、今後ますますの発展を期待させます。今回発表した3名も高校生にも引けを取らない発表となっていました。

### 参加した卒業生TAの声

主として人文科学分野の発表を拝見しましたが、ここ数年の芝柏が、人文科学・社会科学へ注力してきたことの成果を確実に感じました。

(36期 中井さん)

研究の問いを立て、解決方法を模索し、まとめるという経験は様々な場で有効な手法なので、今後の皆様の良き糧になるとと思います。

(30期 高根さん)

画面越しでも伝わる真摯な姿勢が多く、質問やアドバイスを呼んだと思います。更なる成長を楽しみにしています。

(38期 千葉さん)



### Webコン探究学習への取り組み

今年度はコンテストが例年と異なる形（日程・発表形式）で実施となりました。校内では中学校が初めての取り組みとして、学年を横断したチーム編成を行い、Googleサイトで内容を制作するを行いました。今年度はコロナの影響で学校行事の変更もあり、探究活動に多くの時間を充てることができました。

結果として、生徒たちの多くがしっかりと取り組むことができたようで、このことはアンケートの結果からも明らかになっています。また、他学年の生徒との活動によって、程よい緊張感をもてた生徒もいたようです。また、密を避けるために事前に作成した動画を用いた中間発表、Webページに対するアンケート分析やSDGsと紐づけた振り返りなどは生徒にとって初めての刺激となりました。中高6カ年でSSHに取り組むうえでも、引き続きバージョンアップを行っていきます。

## 中学 学年情報

### 中学1年

#### 節目と疑似有能感

落ち着かない1年が終わろうとする今、気になることが2つ。

◆1つは、今年は入学式や研修旅行など、その年の節目を感じるイベントが無くなってしまった。あるいは「やり切った感」がなかった。それが日々の生活のメリハリをも失わせたり、心の成長のステップを踏めない、ということにつながっていかないか。自分ではどうしようもできない区切りを、自分の外側にある何か「つけてくれる」ことは、大人なら何度も経験している。この体験を喪失しているとしたら…。

◆もう1つはコンピュータがもたらす「疑似」有能感への懸念。どちらかと言えば嫌悪。便利で効率的なのはいいけれど、僕たちは賢くなること放棄していないか。その名の通りフワフワとしたクラウドへひらりとアクセスするのはいいけれど、検索結果とその場限りの出会いと別れを繰り返すばかり。パソコンさえあれば（&学校の素晴らしいwifi環境があれば）、やりたいこと（ゲーム&ネットサーフィン&動画垂れ流し）は何でもできて、何でも知っているかのような「疑似」有能感に浸ってしまうが、頭は空虚なままなのでは…。このトリックに気づかず青春時代を過ごすことの恐ろしさを、だれか共感できますか？

◆この2つのベクトルが向かう先は、要するに「成長の放棄」。今のままでもう充分という頹廢的充足感でしょう。なんとかせねば。だが世界はもうその方向へと……?!。



男子体育授業「駅伝大会」の様子

### 中学2年

#### 中学21期学年情報「最高学年へ！」

日頃から学校、学年の教育活動にご理解ご協力いただきありがとうございます。2月に職業講演会を行いました。今年度はCOVID-19の影響により様々な業種へ出向いての職場体験ではなく午前は東洋製罐グループホールディングス株式会社、午後は野村ホールディングス株式会社によるオンライン講演とプレゼン発表を行いました。製品に対する企業理念やこだわりを知り、社会問題を解決するためのビジネスを考えプレゼン発表をする、職業観を養う貴重な体験となりました。また、その週末には福祉講演会として聴覚障害者の方に講演をしていただきました。手話学習やジェスターゲームを通じて、相手とコミュニケーションをとるためには顔の表情や伝えたいという思いがいかに大切であるかを考えさせられる時間となりました。

いよいよ最高学年になります。21期生全員が学校代表として学習、部活動、学校行事や生徒会活動等で活躍することを期待すると共に楽しみにしています。保護者の皆様、今後もお子様がお有意義なシバカシ生活を送れるように教員一同手助けさせていただきます。現在、思春期真っ只中の彼らは大人からの自立や自分探しを模索する中で体調や気持ちの変化が起こりやすくなるかもしれません。ご家庭でもお子様の体調をはじめ何か気になることがありましたら連絡を頂けたらと思います。引き続きよろしくお願ひ致します。



### 中学3年

#### 「さらなる探究の旅へ」

今年度は、教科書発送から始まり、オンラインでの学年集会、授業の配信と、学びを続けるためのサポートと心のケアに試行錯誤してまいりました。限られた環境の中ではありましたが、いろいろなつながりの中で支えあい、さまざまな影響を受けあいながら切磋琢磨し、皆様のご協力のもとに、卒業式を迎えることができました。

2月6日にはPTAの方による仕事塾がオンラインで開催され、2月13日は高校生の先輩方による生徒探究発表会にも参加させていただきました。先輩方の研究や保護者の方の職業の一端に触れたことで、興味関心に基づいた探究の在り方をイメージするとともに、次のステージへ向けた進路意識を深めることができました。

チーム20期は、「ともに探究し、思いやりのある仲間」の学年目標のもと、とても活発な集団に育ってくれました。3年間、さまざまな場面でご指導、ご支援をいただきましたたくさんの方々に厚く御礼を申し上げます。4月からはチーム42期として、または新たなチームとして、さらなる探究の旅へ出発します。先の見えにくいこのような時こそ、柔軟に思考できるしなやかさを持ち、より遅く歩みを進めてくれることを願います。保護者の皆様、ありがとうございました。そして、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



## 高校 第39期生卒業

39期卒業記念品として、デジタルサイネージ（電子看板）を中学・高校の昇降口に設置していただきました。外来者向けに学校説明会等で学校紹介VTR、入試情報など、生徒向けにクラブ紹介や行事・イベント情報、各種連絡などの情報発信をしてまいりたいと思います。ご支援に感謝し、末永く大切に活用させていただきます。



## 高校 第39期生卒業

### 送辞

教室の窓から差し込む日差しにも春の気配を感じることが出来るようになりました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。先輩方は、委員会や部活動でいつも私たちを引っ張って下さいました。そんな先輩方が卒業してしまうことを、会場に来られなかった多くの在校生が悲しんでいました。しかし同時に、今度は我々が、学校にとって欠かせないリーダーとなり、後輩を引っ張っていきけるように、精一杯精進していきたいと思っています。今日で芝柏を卒業し、高校生活が終わってしまいます。これから先、大きな壁にぶつかって、苦戦を強いられることもあるでしょう。しかし、先輩方は学校の最上級生として、また、委員会や部活動のリーダーとして立派にやってこられた経験があります。なので、きっと先輩方なら歩いて行くことが出来ると信じています。最後になりますが、先輩方のご健康と益々のご活躍を心からお祈りし、送辞とさせていただきます。

### 答辞

新型コロナウイルスの影響が続く中、私たちのために、このような心温まる卒業式を挙げてくださり、ありがとうございます。仲間と協力して乗り越えた自学自習研修、現地の学生と交流したオーストラリア研修を経て芝柏での生活に慣れ始め、最高の仲間と囲まれながら勉強に、部活に励み、理想の高校生活に近づいてきた頃、新型コロナウイルスの感染拡大が始まりました。自分たちの力ではどうすることもできない現状が、ただただ悲しく、悔しかったです。そんな中でも、僕たちが充実した生活を送れるように尽力してくださいました先生方、支えてくれた仲間たちには感謝の気持ちでいっぱいです。そして最大の理解者であるお父さん、お母さん。本当にありがとう。二人にももらったこの体を大切に、これからも頑張りを続けることを約束します。芝柏で過ごしたこれまでの経験を糧に、卒業生それぞれの栄光の架橋を渡り、次なる新しい道を進んでいくことを願い、答辞といたします。

### 高校三年生を送る会

3月1日(月)『高校三年生を送る会』が行われました。今年度は、コロナ禍の中、例年とは異なる形での開催となりましたが、三送会委員長の2年1組川又海斗くんを中心に、創意工夫に富んだ素晴らしい三送会を創り上げ、卒業生に精一杯の感謝の気持ちを伝えることができました。例年は体育館に全校生徒が集まって行う三送会ですが、今年度は高校3年生の各教室で、プロジェクターを使ってのビデオ上映会という形で行いました。芝柏での3年間を振り返る思い出の写真や、部活動ごとに後輩から先輩への感謝の気持ちを伝えるビデオメッセージ、そして39期生を担当して下さった先生方からのメッセージもあり、3年生にとって楽しかった芝柏での思い出を振り返る良い機会となりました。最後には三送会委員が卒業生へお祝いの言葉を述べ、花束が贈呈されました。



## 生徒会本部情報

### 中学

#### 20期生徒会ご苦労様でした&21期生徒会頑張ろう!

20期生徒会は12月に生徒総会（議案編）を放送と画面共有で行い、生徒の質問・要望に真摯に返答することができました。また代表委員会ではP.Pの取り組みについても自分たちで話し合う姿勢に感心しました。あとは引継ぎをしっかりと、役目を終えて下さい。1年間お疲れ様でした。21期生徒会役員選挙が2月末に行われ、新たに生徒会長本田海君が選出されました。来年度もコロナの影響は続くと思いますが、今持っている芝柏をより良くしていきたいという高い志を忘れずに、また先を見据えた計画性を持って取り組んでくれることを望んでおります。



### 高校

#### 高校生徒会本部活動報告

12月23日に第41期高校生徒会本部役員の認証式が行われました。11月の選挙で選出された会長石井君、副会長大阿久君、関君を中心とした41期生徒会本部が発足しました。委員会の整理や広報活動の活発化など公約に掲げた取り組みの実現に向けて早速動き出しています。一方、第40期生徒会本部は、最後の大事な仕事として約半年にわたる議論の末まとめた「情報端末の使用規定案」を2月末に学校側に提出しました。40期生徒会本部は、合唱祭の高3有志参加や冬季の黒タイツの着用許可の実現に貢献するなど目覚ましい活躍を見せた1年でした。



## 高校：学年情報

### 高校1年

#### 誠実に、ひたむきに

いつもとは違う、どこか物足りなさを感じたまま、高校初年度を終えました。皆さんは文理選択を終え、最終的な進路に向けてひとつ大きな前進をしました。文理や選択科目を決めるにあたり、色々と悩んだ人もいたことでしょう。いま、その選択が正しかったかどうかを改めて考えてみることも大事ですが、これから未来へ向かって進んで行く皆さんには、むしろ、将来その選択が正しかったと思えるような日々を今後送ってほしい、そう強く願います。人生にはその時正しいと信じていても後々間違っていたのではと思うこともあるし、もう一度やり直したいと後悔することもあります。もっとこうなっているはずだったのにと、自身が抱く理想とは程遠い目の前の現実に納得がいかず、すべてを否定的に考えてしまう。しかし、逆に言えば、今後人生のどこかで、大きな幸福感や充実感に満たされた時、いまの自分があるのはこれまでの自分があったからだと思いを肯定し、苦しんだ日々さえも懐かしいと思えるようになるはずです。だから、そんな未来のために、今回の自身の決断を胸に、次の1年をしっかりと歩んでほしいと思っています。

2020年度は、個人的にも忘れられない激動の1年になりました。次の2021年度、この思いを糧に、また皆さんとともに揺らぐことなく前進したい。そして、皆さんの笑顔が昨年の分まで増える1年になることを願ってやみません。



### 高校2年

#### 1年後の卒業に向けて。

いきなりの休校、定期考査中止になってから1年。早いもので、もうすぐ高3、最高学年です。3月2日39期生の卒業式が行われました。本来であれば40期の皆さんも卒業式に列席して「来年は自分たちの番」と、考えられたはずなのですが、コロナ禍でその機会を失いました。数々の節目の行事をスキップしてしまうことによって気持ちの区切りをつけにくくなっています。今こそ考えてほしいこと、それは。「あなたの目標は何ですか？」その目標のために何を努力しますか？

人間は努力をしても出来ない、壁にぶつかったと感じた時に成長する生き物です。やりたいことがある人は強くなります。少々のことではくじけない、人として強く、許容量のある人になることが出来ます。目標は近くても遠くても良くて、自分が前向きに努力できるものであればなんでも大丈夫です。今までの時間も、残された時間も地球上のすべての人には1日24時間という時間が与えられています。ただ、その中でどう過ごすかで、同じ1時間でもやりたいことがある人と別に何も無い人では、時間の「濃さ」が異なります。大人になったとき、人の役に立ち、感謝される、そして感謝する、そんな人になってほしいです。ありがとう、と言われ、言う人間。どんな人間を目指しますか？1年後、晴れやかに卒業するために、「今」を大切にしましょう。



### 高校3年

#### 高校3年学年情報

39期生保護者の皆様。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。担任団それぞれが持ち味を発揮し、クラスに捉われずに指導に当たられましたのは、ひとえに保護者の皆様のご理解ご協力があったのもです。感謝申し上げます。

自分自身とは異なる個からの刺激は、自分自身を見つめ、向き合う辛さも経験させてくれたはずで。自分の強みに気づくだけでなく、自分の足りない部分に触れ、仲間を羨ましく思うこともあったことだと思います。それでも子どもたちは、仲間の成長を喜び合うことのできる、互いに認め合い高め合う仲間でした。これから大学、社会へと世界を広げる中では、育った地域や環境、文化的背景、経済力、価値観も異なる出会いが待っています。その中で彼らの持ち味が生かされ、互いに認め合い高め合う仲間として相互に世界を広げ、活躍してくれることを願っています。

世の中の変化は非常に速く、コロナ禍でさらに加速しています。これに伴い、社会に求められるものも刻々と変化しています。幅広い教養を身につけ、真理を探究することはもちろん、自分自身にプライドを持ちつつ、怖れずに自己変容していく勇気を持った大人になってほしいと期待しています。

3年間本当にありがとうございました。担任団一同、心より感謝申し上げます。



## 各部情報

### 総務部

#### コロナ禍での行事

10月に実施した避難訓練では、いかに密を避け、迅速に避難するかをテーマに行い、東日本大震災から10年となる節目の年、防災意識を深めるよい機会となりました。日頃から防災に対する意識を高めて行く必要があることを改めて確認しました。

今年度は増穂祭や文化講演会など、保護者の皆様とともに実施する行事が中止になってしまい、PTA役員および幹事の皆様におかれましては、手さぐりの状態でのPTA活動にご協力いただき、ご負担をおかけいたしました。この場をお借りしまして、ご協力をいただきました保護者の方々に御礼申し上げます。そんな中、多くの保護者の方々のお力をお借りして『仕事塾』を開催することができました。オンラインでの実施となりましたが、様々な職種の方から働くことの意義や進路実現に向けた意識醸成など、多くのアドバイスをいただくことができました。

この後は卒業式や終業式、入学式、始業式と式典が続きます。年度の切り替えで節目となる行事となります。気持ちを新たに次のステージへ進めるよう、しっかり取り組んでもらいたいと思います。

保護者の皆様におかれましては、まだまだ先の見えぬ状況ではありますが、今後ともPTA活動にご協力いただければ幸いです。

### 生徒部

#### 春休みの過ごし方

2021年度も終わりに近づき、新しい年度が始まろうとしています。その前に春休みの過ごし方を含めていくつか注意をしておきます。冬休み前にも言いましたが、コロナの状況の中で、SNSを通じて小中学生が事件に巻き込まれることが大きく問題になっています。また、SNSは被害者になるだけでなく加害者となって他人を傷つけてしまうことがあり本校でも生徒指導の多くはSNS絡みの指導で、中には軽い気持ちでやったのにも関わらず厳重な指導を受けた生徒もいました。保護者の皆様もお子様のスマホの使用についてはできるだけ注意をしていただき、お子様と使用についてのルールや、他人に迷惑をかけないようにするなど、日ごろから話をしていただきたいと思います。

来年度は、高校生のスマホ利用規定の変更も予定しており、今まで以上にSNSに関しては各自注意してほしいと思います。SNS以外でいうと通学時の電車内や駅のホームでの本校生徒のマナー違反に対する苦情が多く寄せられました。

集会が行えないため担任の先生から注意を受けていると思いますが、公共の場でのマナールールを守り芝浦柏の生徒としての誇りをもって行動してください。他人を思いやる気持ちをもってみんなが楽しく通える学校になるように努力してください。

### 事務局

#### 年度末・新年度に向けてのご連絡

#### スクールバス定期料金の改訂について

本校では今年度、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、スクールバスにおける生徒の密集を避けるため時差登校を行ってまいりました。しかし、この時差登校は授業時間の短縮を伴っていることから、あくまで暫定的な措置という位置づけでした。そこで校内でスクールバスにおける感染症対策を検討し、2021年度よりスクールバスの体制を現行の6台から7台に増便することといたしました。

増便に伴う費用については一部校費を充てますが、バス定期料金を改定することでスクールバスを利用されるご家庭にもご負担をお願い致します。改定額は「新柏駅⇄学校」スクールバスが年間58,200円から68,400円、「柏駅⇄学校」スクールバスが年間79,800円から82,000円となります。保護者の皆様におかれましては安全安心の学校運営の一環としてご理解のほどお願い申し上げます。

#### 春休み期間の窓口について（祝祭日を除く）

◆平日（月～金） 8:30～16:30

◆土曜日 8:30～14:30

JR学割証など各種証明書の申請・受け取りを行う際は生徒証が必要となりますので、ご注意ください。

### 厚生部

#### 1年間の取り組み

厚生部では、生徒や教職員の健康を推進し、安全を確保するために、1年間様々な取り組みをしてきました。

夏休みは熱中症予防のために、校内外の温度や湿度を測定し、基準値を超えた場合は部活顧問に注意を喚起しました。

中高委員会も制約のある中、校内の活動に積極的に取り組みました。年末の「赤い羽根共同募金活動」では、中高合わせて36,084円を寄付することができ、柏市長からお礼状をいただきました。

また3月には後援部からご支援をいただき、カフェテリアに新しいパーテーションを設置しました。今後も感染症対策に努めたいと思います。

マスク生活で呼吸が浅くなったり、口呼吸が増えたりする傾向にあります。深呼吸をしながら肩の力を抜いて、緊張を緩めましょう。

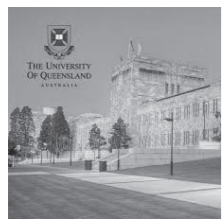


## 各部情報

### グローバル委員会 芝柏から世界へ 2020

#### ●海外大学進学

今年度は、オーストラリアの名門大学グループ“Group of Eight”の中、クイーンズランド大学、ニューサウスウェールズ大学をはじめ、クイーンズランド工科大学、アデレード大学など延べ7名が海外大学に合格しました。コロナ禍でも世界のトップ大学は、世界中から優秀な学生を集め、レベルの高いグローバルな学習環境を整えています。芝柏グローバル委員会では、コロナに負けず、世界を視野に将来を考える生徒の海外大学進学を引き続きサポートしていきたいと思っています。



### 図書室 図書室よりお知らせ

今年度は休校期間もあり、例年と比べると少ない利用状況でした。このような状況においても貸出1位の生徒さんは350冊以上借りています。春休みも通常開室していますので新年度に向けてみなさんぜひ図書室を利用してください。

今年度購入した図書数：1131冊  
貸出冊数：7605冊（3/3現在。教職員も含め、すべての利用者合計）

#### 春季特別貸出のお知らせ

- ◆春季特別貸出：3/3（水）～4/5（月）  
※1人5冊まで
- ◆返却日：4/12（月）
- ◆春休み開室日：月曜日～土曜日  
（開室時間：9時～17時）
- ◆閉室日：日曜日  
4/6（火）  
4/7（水）閉室となります

#### ●海外留学

来年度（2021年度）の夏から、高校生2名がアメリカの高校へ約1年間の留学を予定しています。また、3名の高校生が文部科学省主催『トビタテ！留学JAPAN』に応募し、見事全員一次選考を通過し、二次選考に向けて自分の将来と海外で学ぶことについて真剣に考えています。その他には、『AIG 高校生外交官プログラム』に8名の応募があり、そのうち1名が、全国でわずか40名の採用の狭き門の一次選考を通過し、二次選考の英語試験・グループ実習・面接に向けて準備をしています。コロナ禍でも世界とのつながりを断つことなく、チャンスを掴みに行く志の高い生徒が芝柏にはたくさんいます。芝柏グローバル委員会ではこのような生徒を全力でサポートし、世界に開かれた芝柏を創造していきたいと考えております。

### 保健室 情報機器との付き合い方

ステイホームにより、オンライン授業やリモートワークが進み、大人も子どももパソコンやスマートフォンなどの情報機器を使用する時間が増えました。最近、眼精疲労や目の異常を感じて眼科を受診する人が増えており、情報機器の使用が増えたことによる影響と言われています。目の不調が心の不調につながるとも言われていますので、うまく付き合っていくことが大切です。情報機器を使用する際は「3つの50」を守りましょう。これは、①必ず50cm以上離れて見る、②50cm離れても良く見える文字の大きさや明るさなどに画面を設定する、③連続で使用するのは50分以内にするということです。また、1日に2回程度、目をリラックスさせるために、遠くの目標物を決めて約3分両目で見続けるとよいでしょう。

### 情報部 今年度のICT活用について

2020年度の本校におけるICT活用の現状をお伝えします。今年度の中学1年生からChromebookを導入いたしました。これまでのWindowsPCに比べるとChromebookは自由度が下がりますが、学校で活用する上での必要十分な機能が備わっています。

中高6学年においては、Google Workspace for Education（旧G Suite for Education）を今年度より本格的に導入しています。生徒への様々な連絡事項はGoogle Classroomを通じて行うなど、様々な場面での活用が進んでいます。ご家庭との欠席連絡についてもこれまでは指定の時間に電話をかけていただく形でしたが、電話連絡に加えてGoogleフォームでの回答でも受け付ける変更をいたしました。

国が主導するGIGAスクール構想が今後進むことで、すべての学校においてICTの活用がより一層進んでいきます。本校もこれまで以上にICTの活用について研究を進め実践に落とし込んでいきます。

### クオレ コロナ禍でのメンタルヘルスについて

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、全国の小中高等学校の臨時休校が要請された日から約1年の時間が過ぎました。なかなか先の見通しが持てない中、手探りで過ごしてきた1年だったと思います。「新しい生活様式」と言われ、生活が大きく変化した1年でもありました。

コロナ禍の生活の変化は、自覚しにくい疲労をもたらしています。まずはご自身の疲労を自覚した上で、対応策を考えて欲しいと思います。その1つは、しっかり休憩・休息をとることです。普段より1時間多く睡眠をとるだけでも、疲労を軽減する効果があります。また、自粛のため家にいる時間が長くなっていますが、できる範囲で身体を動かすことも大切です。

まだまだ続くコロナ禍の生活です。ご自身の心と身体をいたわりながら過ごして欲しいと思っています。

## PTA情報

### 本年度の活動状況

PTA 会長

いよいよ4月より新しい年度となります。本年度のPTA活動では、コロナ禍での活動となり、学校との協議の結果、集会等を最低限とした為、クラス懇親会、増穂祭、文化講演会を中止とし最低限の活動としました。

そうした中での仕事塾活動では、7月こそ中止となりましたが、2月開催の際は、初のオンライン開催が滞りなく完了しました。この結果から、海外や地方からの保護者参加も可能であることが実証でき、今後の仕事塾発展の可能性を感じることができたことは成果であったといえます。

来期においても、不透明な状況での活動となりますが、時代に合わせたPTA活動を皆様と共に楽しく実施して行きたいと思っていますので、引き続きよろしく願い致します。

### 【学年代表 活動報告】

#### 中学1年学年代表

今年度は保護者会の活動がほとんど行われず、学年代表として何もできませんでした。また機会がありましたら、生徒と学校の支えになるような活動に参加できれば、と思っております。ありがとうございました。

#### 中学2年学年代表

今期はコロナの影響で全ての活動のスタートが遅れ、また多くのイベントが縮小、または中止となってしまいました。学年代表として子供達の為に精一杯務めさせて頂こうと思っておりましたが、皆さまと数々の取組みが出来なかったことをとても残念に思います。

コロナ禍で先が見えない中、先生方、本部役員の皆様は大変ご苦労されたことと存じますが、その都度臨機応変に対応して下さったことに心から感謝申し上げます。1日でも早くコロナが収束して、いつもの学校生活が戻ってくれることを願っています。

#### 中学3年学年代表

本部役員さんのご助力を仰ぎ、巣立ちの会に向けて準備を進めてきました。対面での打合せが難しく、また変動の中ではありましたが、今年出来ることを出来る範囲で最大限に取り組むことを目標にして、例年の記念品贈呈の内容を踏襲した形で開催することとなりました。

ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

#### 高校1年学年代表

今年度は保護者会や増穂祭の縮小、懇親会の中止など例年通りの活動を行うことができず、クラス幹事としてとても心苦しい1年となりました。

このような中でも、子供達の学校生活と保護者の皆様とをつなぐお手伝いが何か出来ないかと模索し続けてきましたが、十分なことができずに申し訳なく思っています。世の中の状況が変わっていく中で、先生方には子供達の学びを止めないために大変なご尽力をしていただきました。

有難うございます。1日でも早く、以前の学校生活が戻ってくることを切に願っております。

#### 高校2年学年代表

例年のような活動は出来ない年になりましたが、ニューノーマルに即した今後のあり方を考える良い機会になったのではないのでしょうか。

この1年保護者の皆さんが先生方・学校と連携し、子どもたちが安全に充実した学生生活を送れるように努力されたことは立派なPTA活動だったと考えます。

皆様ありがとうございました。

#### 高校3年学年代表

コロナ禍の影響で先の見通しが立たず様々な制限ある中での活動となりましたが、幸い卒対委員は組織する事ができ、お世話になった学校や先生方への感謝の気持ちを表すことが出来ました。

長きに渡り子ども達を見守ってくださった先生方、特に39期学年団の先生方、そしてご協力下さった保護者の皆様、本当に有難うございました。

## 後援部情報

### PTA後援部の活動について PTA後援部部長

高校39期生、中学20期生のみならず、また、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。心より喜び申し上げます。

後援部は、みなさまからお預かりしているPTA会費の一部を芝柏の皆様役に立つ様にどのような支援をするかを検討し実行していく役割を担っております。PTA会則の抜粋になりますが、施設・設備並びに教育用品に関する支援について、原則として中長期的視点を持って検討し審議することとなっております。

先生及び生徒や保護者からのご要望やご意見を基に校内を回って実態把握を行いながら必要性を検討し、芝柏をより良い環境にしております。

今年度はコロナ禍の影響で活動開始が遅れた為、審議するための部会は例年より一回減らした活動になりました。その中で以下のように支援をして参りました。

学校への支援として交流館講義室ブラインドの新調、自習室パーテーション、中央校舎階段手摺塗装、走査型電子顕微鏡など、また、部活動への支援として中学・高校ソフトテニス部審判台、サッカー部サッカーゴール・ゴール運搬具、吹奏楽部楽器修理、水泳部アウトドアタイマー新調などの支援を行って参りました。

来年度は、具体的な支援予定が決まっておりますが、随時、学校内で老朽化した備品・設備や新しく必要と思われるものの支援の検討を行い、生徒の皆様が快適な環境で、勉強や部活動グループ活動等を活発に行って頂けるよう、また、先生方にも良い環境になって教育、指導し易くなったと実感して頂けるように活動して参ります。

引き続き、皆様のご理解とご協力を頂きたく、よろしくお願い申し上げます。



吹奏楽部

吹奏楽部活動報告

今年度、吹奏楽部は様々な制約のある中で、できるかぎりの活動を行ってきました。練習時間や方法を工夫しながら、中学SAXパートがアンサンブルコンテストで銀賞を、高校生の小柳君が日本クラシック音楽コンクール全国大会で優秀賞を受賞しました。また、部内でもクリスマスコンサートを行い、パートごとに趣向を凝らした演奏を披露しました。

現在は4月に開催予定の定期演奏会に向けて、皆さんに楽しんでいただける演奏をお届けするべく、練習に励んでいます。詳細はまた後日HPにてご連絡いたしますので、楽しみにしていただければと思います。



演劇部

あけおめ公演

この度演劇部は、触れない・向き合わない・近づかないというSDバージョンの対策をとった上で、例年通り公演を行いました。公演といっても主に部内での発表で、高校は「僕の猫を殺したのは誰?」。江戸時代の画家歌川国芳と愛猫の話。

中学は「シアワセの鏡」。女子の内面を掘り下げた話でいずれも多くの人に観てほしかった作品でした。



東洋大学学生百人一首入選

34回目を数える今年度、本校生徒(高1)の作品が入選しました。〈テレワーク父の携帯鳴り止まない乾いた笑いおそらく上司〉 コロナ禍にテレワークで働く親の姿を、子供の目線で表現した一首は、言外の様々なことを想像させる秀逸な作品で、朝日新聞の天声人語でも紹介されました。



スキーインターハイ出場報告

令和2年度全国高等学校総合体育大会スキー競技が、2月5～10日の日程で、長野県戸狩温泉スキー場で開催されました。本校生徒(高1)がこの大会に出場し、ジャイアントスラロームで116位、スラロームで97位という結果を残しました。この大会用に特別に整備された難易度の高いコースと、レベルの高い全国の選手の中で、1年生ながら千葉県代表選手としてよく頑張りました。レースの直後にインタビューされた内容が、翌日の読売新聞に掲載されました。写真はスラロームのコースインスペクション(レースの直前に行われるコースの下見)の様子です。立っているだけでも怖くなってしまふような急斜面でした。



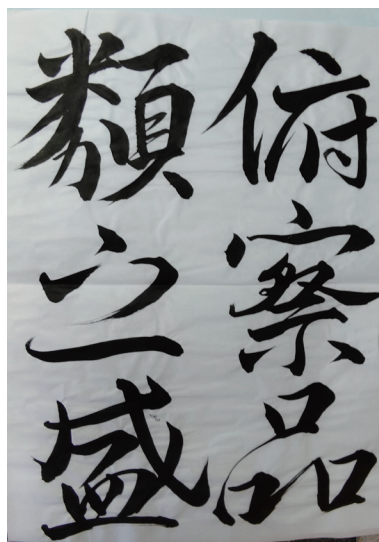
あとがき

新型コロナウイルスが世界中に蔓延して1年が過ぎた。社会では仕事を失うなどの二次的被害に苦しむ人の増加に加えて、地震や豪雪、山火事など、生きていく中で憂いを抱くことが多くなってきた。唐代の『貞観政要』に、「安きに居りて危ふきを思ふ」という言葉がある。平和で安心な時代こそ、突然降りかかる厄災を慮るべきと読み替えられよう。しかし、この困難も必ず克服できることを歴史は教えてくれる。今こそたくさんの本を読むことが大事だろう。

生徒の作品



薔薇の絵  
中学1年



書  
高校1年